

# エンカウンター (ENCOUNTER)

## 第 207号

2019年7月1日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

小西芳之助導源『わが主イエスよ』より (7)

### 第8講 信仰より称名へ

「わが主イエスよ」と称えること、称名

本日の説教は、大体五つの点について申しあげたいと思います。

第1の点は「いかにして救われるか」という問題であります。ロマ書10章の9節、10節では、救われる条件が二つ書いてあります。

一つには心、信仰であります。すなわち、イエスが復活したもうて、そして我々の罪とがを処分して天に帰りたいもうた、我々の贖いを成就したもうたという、このイエスが我々の救いを成就、復活したもうたこと、それを信ずることです。すなわち「わが救いは成就せり」と、そう信ずることです。これが一つの条件。

それから、もう一つの条件、第2の条件は、「イエスはわが主なり」と口で告白すること。「わが主イエスよ」と称えるということ、称名、これが救いの条件になっております。

## 救いとは

救いとは、いつも申し上げます通り、これは永遠の生命をいただくことでもあります。すなわち、現世においては神に、イエス・キリストに守られ、そしてこの世が終れば来世において天国へ帰り、そして時来たらば、復活して、イエス・キリストの復活と同じ体を頂き、永遠無限に神と共に生きる、これが救いの内容であります。

我々クリスチャンは、この救いということについて、はっきりと知っておく必要があります。

## 新約聖書の画竜点睛の場所

この救いの条件は、今申す通り、[ロマ書] 9 節、10 節では二つ、「信仰」と「称名」と二つありますが、12 節、13 節になりますと、信仰という条件が無くなっております。ただ一つの条件になっておりました、「主の名を称える者は救われる」とただ一つの条件となっております。これは注目すべき、驚くべきことでもあります。

これは心の状態を信仰無くして、ただ口で称えるだけで救うという、この無限の神の知恵、これが 12 節、13 節に展開されておりました、これこそはロマ書の画竜点睛ともいうべき場所でありまして、ロマ書のみならず、これが新約聖書の画竜点睛ともいうべき場所にあります。それゆえにペテロも、あのペンテコステの大説教において、「主の名を呼び求める者は救われる」という、このヨエルの預言を引いて、大説教を展開したのであります。

## 消極的ご利益—平安

今度は第 2 の点に入ります。われわれが救われる、すなわち救われて称名するようになりますとどういうご利益があるか、という点に入ります。

消極的ご利益は、われわれに平安が臨むということです。われわれの心に平安が臨む。イエスが「我は平安を残す」、「平安を与える」と、これは、この世の与える平安ではないんだと言われた、この平安。すなわち、天国を望む平安。この平安が臨む。これは、この世の与える平安では無いんだと言われた、この平安。すなわち、天国を望む平安。この平安が臨む。これは、イエス・キリストがわれわれと共にいます、守っていて下さる、死ねば天国と、この心が消極的にわれわれの心が安らかになる。これがご利益であります。

## 積極のご利益

また積極のご利益になりますと、その消極のご利益によって我々は、自分のなしたいことをなすのではなくして、なすべきことをなす力が与えられる。分相応に、己に勝つ力が与えられる。これは積極のご利益です。己に勝つ、なすべきことをなす。このご利益こそは、この力に、われわれ人類がどれほどこの力を持っているかということに人類の幸福はかかっている。

パウロという人は「私はなしたい善はなすことはできない」と、「なしたくない悪をなしている」と、「この死の体より救わんものは誰ぞ」とロマ書 7 章で声をあげましたが、この救いにあずかって以後、ついに彼は「われは、われに力を与えるキリストによって何事をもなしうる」と豪語した。そして言葉で言ったのみならず、彼の生活をもって証明した。これがご利益であります。

## キリスト教のご利益——内村先生という言葉

このキリスト教のご利益は実に実に、この救いというものは実に、内村先生という言葉をもって言えば——内村先生を申し上げます。

「福音、もしはたして神の真理ならば、わが民族の過去において包有せしすべての良き信仰、良き思想、よき精神を満たすものでなければならぬ。すなわち、わが民族の過去において包有せしすべてのよき信仰、良き思想、よき精神は、福音の裏書きたらねばならぬのである。そして、我等はそのことを然りと断定するのである。実にわれわれの祖先の抱きたる最も尊きものは、さらに純化せる姿において福音のうちに満たされるのである。」

と先生が仰せになっていますが、私も「然り、福音の内に完成されるのである」。

## 完成

私は内村先生の言葉について、先生の「純化」ということに対して、私は「完成」という強い言葉を使いたいと思います。すなわち、我々の祖先が抱いた、あるいは念仏の信仰、あるいはお題目の信仰、あるいは禅宗の座禅の信仰、あるいは武士道、あるいは儒教、そういう粋が実にこの福音のうちに完成されている。故に、10章4節においてパウロが言っている「キリストは律法の終わりとなった」。あの終わりという原語は決勝点という意味がありますから、Goalという字です。そうですから、あれは「完成」と訳したらいい。

故に、このキリスト教の救い、称名こそは、われらの祖先が持ったすべての思想、すべての信仰の完成です。パウロの言葉で言えば「テロス」。

## 真理は、実行してみてもわかる

第3の点に移ります。第3の点は、キリスト教の真理というものは人知を超えている。生まれつきの人知を超えている。人知をもってしては分からない。これは、そのまま素直にそれを実行するしか手がない。イエスは「幼子の如くならなければ天国へ入れない」と仰せになった。この間の消息を言う。内村鑑三先生は「真理は考えただけでは分らない。実行してみたらわかる」と言われた。真理は、それ自身が証明する。天理教のおみきばあさんは「学者と金持ちは後回し」と言った。

私も最近、分相応に称名を実行しまして平安を与えられ、また自分の前に置かれた小さな義務を少しずつ実行させて頂いて、誠に平安な人生を送っております。諸君もどうぞ称名をして、平安な人生をお送りになるようにお勧めいたします。。これが3番目であります。



#### 第4番目「向陵3年信仰60年」(同窓会誌への寄稿)

大正6年(1917年)9月、(一高)中寮10番の部屋に入寮した。同室には、英法では佐々木、樋口、独法では大村、仏法では前田、工科では児玉、山田、農科では中野、医科では橋本、余語の諸君が頭に浮かぶ。中野君の紹介で、小石川白山教会の米国宣教師ミス・モークを訪ね、同年10月より白山教会の集会に出席することとなり、爾来現在まで60年続いて、キリスト教の集会に毎日曜出席することになった。中野君との出会いは、私の一生の流れの方向を決めることになった。…

翌大正7年(1918年)5月、白山教会にて、ホーリネス派の監督、中田重治師の特別伝道集会において「イエス・キリストの血、すべての罪よりわれをきよむ」の福音に接し、英法の笹垣、新谷、石井の諸君と共に、翌6月2日、同教会にて洗礼をうけた。この日はちょうど40年前、1878年6月2日、内村鑑三先生他数名が受洗された記念の日であった。

同7年10月、中寮7番在室中、英法の松沢君より内村鑑三先生が神田基督教青年会館にて説教あるを教えてくれ、幸い先生の集会が日曜日の午後であったため、10月より引き続き出席することにした。

## 島村清吉先生との出会い

なお、大正 8 年 8 月、英法の土田と共に恩師島村先生を奈良県郡山市のご自宅に訪問し、「仏教浄土門の信心を学ぶためには、法然上人の『和語燈録』を読め」との教訓を頂き、爾来『和語燈録』は引き続き 60 年座右の書として、日々信仰の意義を教えられつつある。

この 10 月、昭和 52 年 10 月第 3 日曜日から、私の第 2 の 30 年の伝道が始まった。第 1 の 30 年の間は、「イエス・キリストを信ぜよ」「イエス・キリストの贖いを信ぜよ」という伝道であったが、これからの第 2 の伝道は「イエス・キリストの名を称えよ」、「称えようではないか」。「人に称えよ」ではない、「自分が称えよう」という伝道に展開した。

## 島村清吉先生の教え

私の先生と弟子の信仰。私がここで今言った島村清吉先生の信仰です。私に仏教、浄土門を教えてくれた先生。これは先生の説教の一部。

「弥陀の本願を信じて、この世における間に弥陀の功名のうちに接取されますと、心がいつも極楽にかようていますから、「御恵みの光はるかにかぶりばや 何につけても嬉しかりける」。幸福なことがあると、これほどのことさえこのくらい嬉しいのに、極楽往生したらどれほどうれしかろうと喜び、また不幸な目に遭えば、これは娑婆のありさま、浮世のならいである。この世はこの世界である。しかしいまに西方極楽へ往生させてもらったら、福智無量の身としていただけると、幸、不幸、ともに、何につけてもうれしかりけるであります」。

これが先生の信仰。

## 称名において、信仰は完成される

それから弟子の信仰。この先生の弟子、私たちの先輩。これは弟子の言葉、私がこの耳で聞いた言葉。

「(島村) 先生は大学者であられましたが平凡でありました。先生の念仏も、また平凡な念仏でありました。私は年おいて (70 くらい) 盲目となり、最近病魔に侵され、世間から見ると逆境ではありますが、念仏から見ると非常に順調であります。この平凡なる念仏の味をしみじみ味わうことができ、感涙にむせんでおります。」。これが 70 の老人の病魔の感想。私が耳で聞いた。

以上、第 5、終わり。

そういうわけでありますので、言いたいことは言いましたが、内村先生の言葉をもって言えば、すなわち「キリスト教がもし神の福音ならば、日本の祖先が持っておったすべての良き信仰、すべての良き思想、尊きものが純化された形において福音のうちに満たす」と内村鑑三は言ったが、私は「この福音において完成される」、パウロから言えば「テロス」。アーメン